

Smiles

2020年度 外国語科完全実施までの準備

特集

- ◆効果的な教員研修のために／大谷みどり (鳥根大学教授) 2
- ◆環境整備におけるポイント／中嶋美那子 (目黒区立中目黒小学校副校長) 4
- ◆評価の考え方とその方法／赤沢真世 (大阪成蹊大学准教授) 6
- ◆おさえておきたい特別支援教育の視点
—準備・確認のためのチェックリスト—／中山晃 (愛媛大学准教授) 8

授業実践

- 楽しく取り組める文字指導の工夫
—We Can!をカスタマイズしよう—
羽田あずさ (横須賀市立田戸小学校教諭) 10

連載

- ◎世界の国から Hello!
第3回：タイ編／横山忠道 12
- ◎豊かなコミュニケーションを育む
アクティビティ (6)／
遠藤恵利子 (東北学院大学非常勤講師) 14
- ◎心を伝える Classroom English (6)／
福田 スティーブ利久 (文教大学准教授) 15



効果的な教員研修のために

大谷みどり 島根大学教職大学院 教授



専門は、異文化コミュニケーション、英語教育における支援（通常学級の英語学習における子どもをつまづきへの支援）、小学校外国語教育。

ミネソタ大学スピーチコミュニケーション学研究科修了（修士号取得）、The American University 文化人類学研究科修了（博士号取得）。アメリカで日本人小中高教員短期研修の受け入れ、JETプログラム出発前オリエンテーション、

アメリカ人教員の日本学習プログラム等に従事。帰国後は島根大学教育学部特任教授等を経て現職。地域の外国語支援員も務める。『主体的な学びをめざす小学校英語教育』（教育出版）等執筆。

状況、ニーズに合った研修を

「外国語科」の教科化という新たな取り組みに向けて教員研修は急務です。しかし、その在り方は市町村や学校の状況、個々の先生方のご経験・ニーズ等に応じて異なります。外国語活動の授業をまだ実際に行っていない先生から、高学年担任で既に週2回取り組んでおられる先生、専科で複数校を担当し、毎日数時間の外国語の授業をしておられる先生まで、それぞれ必要としている研修内容が異なるのは当然です。本稿では、校内研修を進めるにあたり、押さえておきたい点をいくつか述べたいと思います。

○不可欠な管理職の理解とリーダーシップ

校内研修の中心となるのは、外国語担当もしくは研究主任の先生が多いと思いますが、実施にあたっては、校長先生の外国語教育に対する理解とリーダーシップが欠かせません。教科化された道徳や、新たに導入されるプログラミング教育をはじめ、様々な研修が必要な中、まずは外国語の研修の時間確保の後ろ盾となる管理職の役割はたいへん大きなものとなります。

○実際の授業を踏まえて行う協議

研修にも様々な形態がありますが、可能な限り、実

際の授業を見て、先生方が協議する時間がとれると、学びを深めることができると感じています。多くの研修にお伺いして強く感じるのは、授業を見ることで、特に外国語の授業経験が少ない先生は外国語の「授業イメージ」をもつことができるようになります。そして、授業を踏まえて協議を行うことで、児童が外国語の授業を通してどのように学ぶことができ、また児童の学びにつながる授業を教員がどのように創っていったらよいか、という「外国語の授業づくり」について、より現実的にとらえ、考えることができます。

押さえておきたい研修内容

前述のとおり、ニーズによって研修内容は異なりますが、押さえておくべき項目として下記の項目を挙げる事ができるでしょう。

- ・小学校外国語教育の理念と方向性、言語習得理論
- ・授業の組み立て方：単元の目標設定
- ・活動別の取り組み方や教材の工夫、指導法
- ・英語運用能力の向上

○小学校外国語教育の理念と方向性、言語習得理論

これは学習指導要領に記されていることが軸になりますが、小学校の「外国語活動・外国語科」で何が求められ、どこに向かっているのかを押さえる必要があります。例えば具体的には、「話す」「聞く」活動で何が求められ、「書く」活動は小学校でどこまで指導が必要なのかや、小学校での学びは中学校、高校にどのようにつながっていくのか等が含まれます。

授業でも児童に見通しを示すことが大切なように、卒業時までには到達させる目標や学期末・単元末までの目標など、見通しをもって先生方が授業に臨めるようにしたいものです。様々な活動を知ることはもちろん役立ちますが、それらの活動がどのような意味をもち、どこにつながっているのかを押さえることが重要です。先生方が経験してきた中高の英語教育とはどう違うの

かを理解することも大切です。

同時に、母語ではない英語を学ぶにあたり、言語習得の過程、特に第二言語習得のプロセスを知っておくことが役立ちます。母語と違って蓄積量も接触量も圧倒的に少ない外国語を学ぶにあたって、心に留めておくべきことは何か。なぜインプットが大切で、どのようにアウトプットに進めるべきか等を知ることが、活動を組むにあたって必須のプロセスとなります。

○授業の組み立て方：単元の目標設定

授業を組み立てるにあたり、年間計画を立てるとともに、各単元については各学級に合った目標を考え、設定することが要となります。単元の要となる目標を設定した上で、目標の活動に向けて必要な活動を逆算しながら組み立てていく、いわゆるバックワードデザインと呼ばれるアプローチを取ることになります。

各単元で英語表現を学習させながら、意味ある目標活動をどのように設定できるのかを考えるとよいでしょう。学年に分かれて、少し先の単元の目標を考えることもできます。また、設定した目標をもとに、具体的にひとつの単元計画を立ててみることも、大きな学びとなります。

○活動別の取り組み方や教材の工夫、指導法

様々な活動や教材の使い方については、各学校のニーズに合わせて焦点を絞ることもできます。例えば、Small Talk についてであれば、研究授業で、もしくは研修の冒頭で Small Talk を行い、その後の協議で、自分ならばどのような内容・表現を含めることができるかを学年やグループで考え検討します。文科省が『小学校外国語活動・外国語研修ガイドブック』（2017）に掲載している Small Talk の例も参考にするとよいでしょう。

We Can! や *Let's Try!* には、優れた教材が多く含まれていますが、それらの効果的な活用方法・指導方法を考えることも、研修における大切なポイントです。研修で取り上げる教材を一人の先生が実際に使っている場面を見せて、参加者自身の学級で使うとしたらどのような工夫をするかをグループ協議することも、効果的です。

例えば、Let's Watch & Think, Let's Listen について、まず上手に使っている先生が活用法を見せます。他の先生方は児童役として経験した後、自分が使う際の工夫についてグループで協議します。具体的には、「事前に押さえておいた方がよい情報や聞くポイントを伝えておく」、「教科書にある絵を使いながら、登場人物や場面、状況などについて、児童とやり取りしながら確認していく」等の方法を研修で共有するとともに、さらに児童の学びを深める方法について意見交換を行うようにします。

チャンツやジングルの活用についても同様に行うことができます。

「英語力ブラッシュアップ講座」の勧め

もうひとつ、研修で時間があれば含めたいのが、英語運用能力の向上のための「英語力ブラッシュアップ講座」です。教員は誰もが中学・高校の6年間と大学での1～2年間は英語を学んでおり、基本的な文法は理解でき、高校生の教科書であればおおよその意味がとれるはずですが、実際に英語を話すとなると、途端に自信がなくなってしまうようです。

小学校「外国語」の授業で使う英語表現は限られていますので、よく使う発音と表現を段階的に研修で扱い、話すことに少しずつ自信をもてるようになれば何よりです。また既に先生方の身近にある、発音・表現関係の資料について改めて一緒に確認し、練習してみるのもよいでしょう。前述の『研修ガイドブック』に掲載されている発音のしかたや表現、*We Can!* や *Let's Try!* の『指導編』にQRコードとともに掲載されている「指導者の表現例」、文科省のYouTube から見ることができる英語表現練習等、身近なところに活用できるものは多々あります。（mextchannel「発音トレーニング」[Small Talk] 等で検索。）

また英語力向上に向けては、限られた研修機会だけでなく、職員朝礼や会議の冒頭数分だけでも続けていくと、年間で多くの表現に触れることができるでしょう。先生方が研修を通して授業力を一層高められ、児童の学びがより深まることを願っております。

環境整備におけるポイント

なかじまみ なこ

中嶋美那子 目黒区立中目黒小学校 副校長

東京都立小学校教員歴 29 年。平成 18 年から 3 年間欧州にて生活。平成 24 年度目黒区外国語授業スペシャリスト。東京都英語教育推進リーダー。平成 30 年より現職。

2020 年度の新学習指導要領完全実施を目前にして、各学校・市区町村・都道府県で準備を進めていることと思います。「外国語教育の充実」は新学習指導要領の中でも特に注目されていますが、その対応には地域間で格差があるようです。同じ地域であるにもかかわらず、既に外国語専科教員が配置されている学校とそうではない学校があったり、ALT 派遣の時間数が不十分だったり、指導体制には不安が残るという学校も少なくないでしょう。残された時間で本格実施のスタートを切るにはどのような準備が必要なのでしょう。環境整備の面から不安を少しでも払拭できたらと考えます。もちろん、外国語専科教員が配置されている学校でも、さらなる環境整備は必要となってくるでしょう。以下、必要な環境整備について、3 つの視点から述べたいと思います。

① ICT 環境

【ICT 機器の整備】

小学校の外国語科・外国語活動は音声中心の活動ですから、音声情報と同時に視覚情報があれば絶対的に有効です。ICT 機器を充実させれば、教科書付属の豊富なデジタル教材を有効活用することができます。

- ・大型提示装置（プロジェクター、電子黒板）
- ・指導者用 PC またはタブレット
- ・実物投影機

などは、各教室や英語用教室に常時設置され、使いたい時に「スイッチオン」ですぐに使えることが理想的です。しかし、PC やプロジェクターが十分整備されていない学校・地域も少なくありません。校内の努力だけでは非常に難しいことですが、ICT 機器の整備は急

務です。これは、全教科に必要な整備です。

【インターネット環境の整備】

多くの教師用指導書では、QR コードのような二次元コードからも情報を得ることができるようになるとされます。既存の PC を使う場合は

- ・二次元コードリーダー
- ・二次元コード読み取りソフト

などを導入することが必要です。しかし、セキュリティ保護の関係上、学校の PC から外部への接続が制限されており、気軽に外部リンクを閲覧したりインストールしたりすることができないこともあります。個人のスマートフォンやタブレットを授業で使うこともできません。校内 LAN が整備されていないと、これらも使いづらくなってしまいます。安全を確保しつつ、必要な情報を手軽に入手し、教材化したり指導場面でそのまま生かしたりすることができれば、児童の学習効果を上げるだけでなく、教員の負担軽減にもつながります。上記の機器整備と同様にこれも急務と言えます。

【オーディオ機器の整備】

- ・オーディオプレーヤー
- ・ビデオカメラ

おなじみのこれらの機器も、もちろん必要です。CD プレーヤーは、いざ使おうと思った時に故障していたり、必要な場所になかったりということが現場でよく見受けられます。視聴覚担当者を中心に、確認しておく必要があります。

ビデオカメラは、さまざまな場面で活躍します。児童のパフォーマンスを記録して自己評価に活用したり、指導者の評価材料にしたりすることもできます。児童の成長記録として保護者会で動画を流すといったことも考えられます。映像や音声の記録は、タブレットがあるとさらに手軽で便利になります。

②教室環境

海外の小学校に行くと、カラフルな色づかひの掲示物や表情豊かなイラストが掲示されていたりして、日本とは違った雰囲気を感じることがあります。音楽室に行けば音楽の、図工室に行けば図工の雰囲気が漂います。やはり英語を学ぶためには英語を学ぶ雰囲気をづくり、児童のスイッチを入れてあげることが理想です。

今や、市販の教材も充実し、予算さえあれば時間をかけなくてもさまざまな掲示物が入手できます。数・色・食べ物などの名詞や感情を表す言葉などは定番ですが、4技能・5領域の「やり取り」では、リアクションの表現も大切になってきます。リアクションのヒントとなるポスターも有効でしょう。

英語専用の教室がある学校では、既にこうした掲示物や四線黒板など教材・教具が充実しているのではないのでしょうか。先進校では、階段掲示や廊下掲示などで、授業時間以外でも児童の興味を引く環境づくりをしています。

しかし、どこの学校でもこういった環境づくりができていたとは限りません。英語専用教室のない学校では、まず、校内の掲示スペースを見直して「英語コーナー」をつくってはどうか。外国語担当者あるいは保護者ボランティアやALT・JTE等が担当し、児童が授業時間以外にも英語に興味をもてるような仕掛けが有効です。前述したように、予算上、市販の教材ポスターなどの入手が困難な場合には、保護者ボランティアやALTに作成をお願いすることも一案です。

また、普通教室に英語環境をつくるのは難しいので、移動式ホワイトボードを活用し、表に四線白板・裏にはコミュニケーション活動に必要なリアクションや感情を表す掲示物などを常に貼り付けておき、外国語授業の際に持ち込めば、普通教室が「プチ英語教室」になります。

ただし、現在はUD(ユニバーサルデザイン)の観点から、落ち着いた環境を目指し、掲示物を簡素化したり、掲示場所に配慮したりしている場合もあるので、

特別支援担当のアドバイスも参考にするとよいでしょう。

③教材

【教材・教具コーナーの活用】

コミュニケーション活動を大切にしたい小学校の外国語科では、活動を活発化させるためにカードや具体物などをよく使います。英語専用教室がない学校では、前述したように、校内の空間を見直し、他教科の教材・教具置き場のような外国語教材・教具コーナーを設けることをおすすめします。また、後述する「ブックトラック」に教材・教具を整え、必要な時にそのまま運べるようにしておいてもよいでしょう。

【既存教材の活用】

例えば、小学校1年生が使っている「算数セット」の中には、色板・数え棒・時計・おはじきなどがセットされており、色・数・形・時刻などを示す具体物が豊富に含まれています。クイズを出し合ったり、ポイントティングをし合ったりと、英語でのコミュニケーション活動にも応用しやすい既存教材です。教師用ビッグサイズは、掲示や板書にも役立ちます。

【図書の活用】

英語の絵本があれば、それらを教材コーナーに集めておくと、関連したUnit/Lessonで取り入れることができます。和英辞典がある学校では、それらをブックトラックに常備しておき、児童が調べたい時に各学級間を移動できるようにしておくのが便利です。英語の絵本などがいない学校では、図書予算から英語の絵本や辞典などを購入できるよう、予算会議で提案してはいかがでしょうか。

「授業がうまい」と言われる先生は、身近な物を「教材化」することが上手です。特に小学校の教員にはそういった先生が多いと感じます。環境づくりには、外国語専科や外国語担当の先生だけでなく、全教員のさまざまなアイデアを取り入れ、限られた時間と予算をカバーしていく必要があると思います。

評価の考え方とその方法

まさよ
赤沢真世 大阪成蹊大学教育学部 准教授



専門は、教育学(教育方法学)、小学校英語教育。
京都大学大学院教育学研究科を修了後、京都大学大学院教育学研究科助教、立命館大学スポーツ健康科学部准教授を経て、2015年より現職。
著書に、『小学校 新指導要録改訂のポイント』『第2章 10 外国語活動—子どもの実態をふまえ、伝え合うコミュニケーション場面を設定する』(日本標準, 2010年)、『教科の「深い学び」を実現するパフォーマンス評価—「見方・考え方」をどう育てるか』(第12章 外国語活動・外国語科) (日本標準, 2019年) などがある。

新学習指導要領に対応する形で、学習評価に関する議論も進んできています。外国語活動および教科の外国語科においても、「知識・技能」「思考・判断・表現」「主体的に学習に取り組む態度」の観点に即して評価を行っていくことが示されました。一方で、外国語科においては、各教科に先んじて「～できる」というCan-do形式で学習指導要領に目標が設定され、(実際に)「～できる」という目標が意識されてきています。その点も踏まえて、本稿では、それぞれの観点での評価の留意点を整理していきたいと思えます。

「知識・技能」の評価

他教科と同様に、「知識・技能」は、これまでより一層「活用できる」知識・技能として位置付けられています。教科としての外国語科では、そのテーマに関連した基本的な語彙や表現について、日本語との違いに気づいているかどうか、またコミュニケーション活動を行うための知識として運用できているかどうかを確認していくこととなります。単に知識や技能を「もっていればよい」という習得ではなく、習得の場面においても、実際のコミュニケーション活動を通して、「できた!」という達成感を味わわせながら「活用できる知識・技能」として習得させるということが大切です。なお、

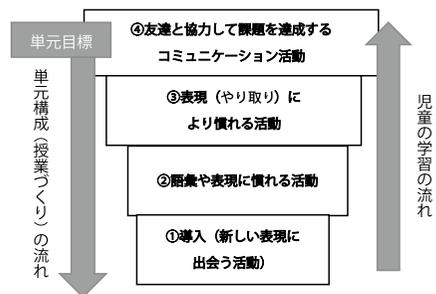
必要に応じてペーパーテストを行うことも考えられますが、必ず実際の言語場面を意識した問題設定が必要です。

「思考・判断・表現」の評価

外国語科における「見方・考え方」として、「外国語で表現し伝え合うため、外国語やその背景にある文化を、社会や世界、他者との関わりに着目して捉え、目的・場面・状況等に応じて、情報や自分の考えなどを形成、整理、再構築すること」が強調されています。このように、目的や相手、状況に応じて思考力・判断力・表現力を活用しながらコミュニケーションを行い、自分の気持ちや考えを伝え合っているかという観点が、この「思考・判断・表現」となります。

評価の際には、『小学校外国語活動・外国語研修ガイドブック』(2017)において示されているように、「筆記テストのみならず、インタビュー(面接)、スピーチ、簡単な語句や文を書くこと等のパフォーマンス評価や活動の観察等、多様な評価方法から、その場面における児童の学習状況を的確に評価できる方法を選択して評価することが重要」(p.27)だとされます。

例えば、教材 *We Can!* の毎単元の最後には発表(スピーチ)やコミュニケーション活動が位置付けられていますが、それを「パフォーマンス課題」として設定し、その活動における子どもの学びの様子を丁寧に見取っていきます。(単元構成については、以下の資料1を参



●資料1 単元構成と児童の学習の流れ(筆者作成)

照。) そうした、目的や場面、状況が設定された、より実際に起こりうる文脈で、自分の思いや考えを伝え合うことができているかを「思考・判断・表現」で評価するのです。なお、その際には、どういった項目で評価するのか、またその項目でどのような姿になっていればよいのかを具体的に示す評価基準表（ルーブリック）を設定することが望まれます（資料2）。発表ややり取りにおいて、児童が「目的や場面、状況に応じて」、「相手に伝えようと工夫して」、当該単元の表現や語彙のみでなく、伝え合うために既習の内容を組み合わせている姿を見せた場合、高く評価していきます。

「主体的に学習に取り組む態度」の評価

外国語科においては、上記のような単元後半のパフォーマンス課題において、相手意識・他者意識をもって活動に参加しているかということや、自分の学びを省察し、次への学習の見通しをもって取り組もうとしている姿があるかどうかを見取ることが重要となります。そのためには、単元構想や授業構想の段階において、そうした姿を見取る機会がすでに組み込まれている必要があります。

具体的には、単に活動を楽しんでいるか、という行動観察だけで終わらせるのではなく、相手意識をもち、相手に理解してもらうための工夫や改善をする課題設定になっているか、また発表の練習の前後で、子どもが発表のメモを加筆修正している場面などが見られたら、なぜそれを加筆修正しようとしたのか問いかけを行うなど、自らの学びを省察できるようなフィードバックやふりかえりの機会があるか、というように、単元

構想の段階から、評価場面や働きかけを設定しておくことが大切です。

多面的な評価を組み合わせること

とくに外国語科では、子どもの興味・関心をひきつけながら、かつ多様な学びのプロセスを捉えながら授業を行うことが求められます。すなわち、形成的に子どもを見取ること（形成的評価）が何より重要となります。まず、子どもの行動観察においては、この時間の授業において、どの場面で、どの児童を見るのかなど、見取る機会をあらかじめ意識しておくといでしょう。

さらに、授業後のふりかえりカードの活用は、児童自身にとっても、授業における目標（めあて）を設定するための指針となります。知識・技能だけでなく、これまでの既習表現を使って何とかして伝え合うことができたか（思考・判断・表現）の項目についても、自己評価させる欄があると、その点が重要であると児童自身がわかるようになります。また、「授業を通して気づいたこと、わかったこと、思ったこと」を記述できる自由記述欄があれば、教師が想定していなかった側面も評価の参考にすることができます。

そして、授業で扱ったワークシートや作品などの成果物や、ふりかえりカードなどの学びのプロセスを表すものをファイルとして蓄積し、それを子どもの学びの姿として評価する方法（ポートフォリオ評価法）も活用が求められます。教師の行動観察が軸になる評価ではありますが、自己評価やポートフォリオ評価法などの複数の評価方法を組み合わせることで、より客観的で質の高い評価が可能となります。

	やり取り（内容）	英語表現	方略的知識	相手意識 （アイコンタクト・ジェスチャーなど）
A	自分の伝えたい内容を伝え、相手の発話に耳を傾けることができている。相手の伝えてある内容を的確に理解している。	当該単元の表現だけでなく、これまでの既習事項を組み合わせられている。	相手に聞き返したり、うなずきながら聞くことに加えて、相手の発話を促したり、自分の伝えたい内容を相手に応じて言い換えたりしている。	アイコンタクトやジェスチャーなどを効果的に用いて伝えられている。
B	自分の伝えたい内容を伝えることができている。相手の伝える内容の概要を理解している。	当該単元の表現を適切に用いている。	相手に聞き返したり、うなずきながら聞いたりしている。	アイコンタクトやジェスチャーなどを何とか用いようとしている。
C	自分の伝えたいことを伝えるのに苦労している。相手の伝える内容も理解できていない。	当該単元の表現を使うのに自信のなさが表れており、間違いも見受けられる。	うなずきながら聞くことはなく、相手の伝える内容がわからなくても聞き返さず、反応が薄い。	アイコンタクトができておらず、ジェスチャーも用いようとしていない。

●資料2 やり取りにおける一般的ルーブリック（筆者作成）

おさえておきたい特別支援教育の視点 —準備・確認のためのチェックリスト—

中山晃 愛媛大学英語教育センター 准教授



専門は、外国語教育、特別支援教育における英語教育、ICT教育。2006年、国際基督教大学大学院教育学研究科(教育方法学専攻)修了、博士(教育学)。足利工業大学准教授を経て、2009年4月から現職。2017年より同・副センター長。学校心理士。

児童の特性を理解する

教科として外国語科(英語)が小学校に導入される大きな転換を翌年度に控え、教材の工夫という指導内容にかかわる課題への対応と、教える側である指導者自身の意識改革が求められています。大きな変化への対応に頭がいっぱいになり、浮き足立ちそうになりますが、そんな時こそ、目の前の児童のこともっと理解しようとする、おのずと糸口が見つかるかもしれません。「教えなきゃいけない内容を、どう時間内に教えるか」というトップダウン的な視点から距離を置き、目の前の児童の興味・関心、得意なことや、逆に苦手としていることなど、ふだんの教科指導や生活の様子をふまえ、児童の特性を理解することから始めてみましょう。このようにボトムアップ的に教材研究を進めることで、地に足のついた教科指導ができるようになるのではないかと思います。本稿では、教科化に伴い、従来の外国語活動では積極的に扱ってこなかった、英語の4技能・5領域(「聞くこと」、「話すこと(やり取り・発表)」、「読むこと」、「書くこと」)に関して、特別支援教育の考えを取り入れてスムーズに導入するための指導・支援の手立てを確認していきたいと思います。

理解支援のチェック項目

Check 視覚支援教材の準備と確認

「聞くこと」の活動において、視覚的な手掛かり

のないリスニング教材の使用は、認知的な負荷がかかる発展的なタスクとなります。例えば、食べ物や職業など、対象が具体的で、イメージしやすい単語(例: banana)や動作を示す表現(例: I can swim fast.)などであればそれほど視覚的支援は必要ありません。一方、人の気持ちや物を形容する表現(例: You are great. / It was fun.)など、人によって解釈や感じ方の度合いが一義的でない場合は、児童の理解度やとらえ方に合わせて、意図的に視覚的な手掛かりを含んだ教材を準備したいものです。

「読むこと」の活動では、内容理解を促すための視覚的な支援を検討する必要があります。文字の大きさや形状(フォント・サイズやスタイル)や配色上の制限(カラーデザイン)、表現の簡素化と構造化(シンプル・フォーマット)等のさまざまな手立てや配慮を施すことによって、学びの質の保証を考えます。

このように、意図的に視覚情報をコントロールすることで、情報過多になりがちな教材・配付資料の紙面を焦点化し、注意散漫になることを防ぎ、効果的に集中力をアップさせることができます。

発話・発表支援のチェック項目

Check 発話・発表支援教材の準備と確認

「話すこと(やり取り)」の活動では、一対一での英語のコミュニケーションが想定されますが、英語学習用のいわゆる「コミュニケーション支援ボード」^{*1}を活用することで、伝えたいことの表現のバリエーションを増やすことができます。話すことが困難であったり、苦手だったりする児童であっても、指さし(ポインティング)するだけで相手とコミュニケーションが取れるように、活動で使用する英語の表現をうまく構造化してまとめることが肝心です。その他、それをタブレット端末などのICT機器と組み合わせることで、発話が困難な児童の代替コミュニケーションツールとしても活

用できます。

「話すこと(発表)」では、スモールステップで活動の場の範囲を広げていけるように、単元の授業時間数における「ペアワーク」から「グループワーク」、さらにクラスみんなの前での発表(プレゼンテーション)までの時間配分を工夫します。リハーサルの回数を効果的に増やすことで不安を軽減し、自信をもってみんなの前で発表できるように授業を展開したいものです。

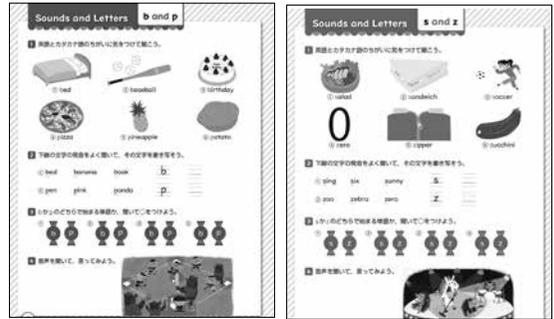
さらに、タブレット端末の録画機能を使い、児童のプレゼンテーションの様子を撮影し、自分の英語の発音や表情・しぐさ(ジェスチャー)、目線(アイコンタクト等)を確認させることも有効です。発達段階により個人差のある、「メタ認知」と呼ばれる客体化した自身に対する認識を、ICT機器の活用を通して促すことで、自分が周りからどのように見えるのか、効果的に気づかせることができるのです。

書字支援のチェック項目

Check 書字支援教材の準備と確認

「書くこと」という項目が小学校外国語科に加わりました。自分の気持ちや考えを外国語で表現するための「書く」スキルであって、その扱われ方が、例えば、英単語を日本語訳と対応させて記憶したり、文法問題の演習をしたりといった、試験対策のような活動になってしまうのは適切ではありません。あくまでも、文字情報への意識、特に音声情報との関係についての気づきを促し、音声で伝えていた内容を、メモや手紙としてまとめたり、プレゼンテーションの原稿をまとめたりするなど、「自分の思いを伝える方法が増える」ことへの楽しさや喜びに結び付くよう指導します。

さて、児童の中には、書字に困難を抱えていたり、苦手意識をもっていたりする子どももいます。国語の学習において、平仮名や漢字の書き取りが苦手な児童は、英語でも同様につまずくことが想定されます。例えば、「b」と「d」のような鏡文字や「b」と「p」等の逆さ文字、「g」と「q」のような一部分のみに違いのある類似文字については、音声情報と合わせて多角的に違いが分かるような指導を心掛けます。



●文字と音声の関係に気付きを与える教科書の紙面例 (ONE WORLD Smiles 5 より)

ところで、小学校外国語科(英語)では、「書くこと」の指導においては、アルファベットや英単語を手書きで行うことが基本となっているようです。しかしながら、ICT環境が整い、コミュニケーションの手段が、SNSをはじめとするスマートフォンやPCなどに代わりつつある今、手書きでの文字の書き取りを強く推奨する必要はないかもしれません。文字の導入及び指導の目的を考えると、丁寧に模写することが目標ではなく、相手に思いや意思を伝えることを選択肢を広げることに意義があると言えます。つまり、PCのキーボードを使って文字指導を行ってもよいのです。タイミングのよいことに、令和2年度からはプログラミング教育も始まります。教科を超えた試みの一環として、かつ書字支援教材の準備として、プログラミング教育とのコラボレーションもたいへん意義があると考えます。



●プログラミング学習をする小学生の様子



●キーボード入力を念頭においた教科書紙面例 (ONE WORLD Smiles 5 より)

※1 話し言葉の代わりにイラストを指さすことで、意思が伝えられるように開発されたカード等のこと。



楽しく取り組める文字指導の工夫 —We Can! をカスタマイズしよう—

■ 羽田あずさ (神奈川県横須賀市立田戸小学校 教諭)

はじめに

本校では、中学年の年間 35 時間、高学年の年間 70 時間の外国語教育の取り組みが 4 年目になりました。外国語の授業づくりで大切にしていることは、次の3つです。

- 目的意識** 何のために、誰とのコミュニケーションか考えさせる。学習の見通しをもたせる。
- 必然性** 行事や他教科と関連させる。場面、状況を設定する。
- 相手意識** よりわかりやすく伝えること、相手が話しやすいように配慮して聞くことを意識させる。

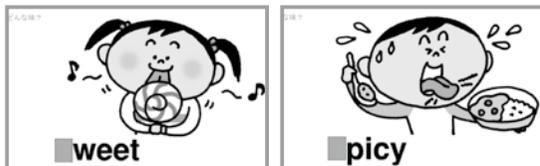
文字指導で大切にしていること

文字指導が加わる高学年の学習で、児童が主体的かつ楽しく「読むこと」「書くこと」に取り組めるように大切にしていることは、以下の3つです。

- ①音声で慣れ親しんだものを文字につなげる。
- ②児童が「読みたい」「書きたい」と思う題材や仕掛けを設定する。
- ③相手に伝えることをねらった「書く」活動を展開する。「読む」「書く」活動が、単なる練習活動に終わらず、コミュニケーションとしての意味をもった活動になるように We Can! をカスタマイズしています。その実践例を2つご紹介します。

We Can! 1 Unit 8: 世界の人々をおもてなししよう ～ What would you like? ～

①音声での慣れ親しみから文字へ



● 『小学英语 絵カードプリント 1400 CD-ROM ブック』
学研教育出版 (2014 年発行) を利用して作成。

言語材料である「味覚」の英語表現は、児童にとって身近なものです。絵カードを用いた音声だけのイン

プットから、絵カードの英語表記の1文字目を隠して推測させることで、文字に慣れ親しませていきます。パワーポイントを用い、テンポよく発語させます。

②音声で慣れ親しんだ英語表現を書いてみよう

児童は、単元の初めに「メニューを作って、レストランでおもてなし (ロールプレイ) をする」という活動内容を理解しています。メニューに、味覚の英語表現を書くという学習の見通しもっています。

書く活動には、3つのレベルを設け、以下のような手作りのプリントを使用しています。

- <レベル1> なぞり書き
- <レベル2> 空欄補充 (1文字目)
- <レベル3> 写し書き (レベル1をお手本に)

レベル1	レベル2	レベル3
sweet	<input type="checkbox"/> weet	
salty	<input type="checkbox"/> alty	
spicy	<input type="checkbox"/> picy	
sour	<input type="checkbox"/> our	
bitter	<input type="checkbox"/> itter	
delicious	<input type="checkbox"/> elicious	
healthy	<input type="checkbox"/> ealthy	

書くことが児童にとって過度な負担にならないように、段階的に指導しています。また、書くことを主体的に選ぶことも、児童にとって大切だと考えます。

③レストランのメニューを作り、おもてなししよう

紹介したい国を決め、その国の料理を調べます。味覚の英語表現を切り取り、メニューに貼ります。画像を貼ったりイラストを描いたりする活動が児童は大好きです。

メニューができれば、接客したり、されたりする活動を行います。次のページの図のように、各々が作成し



たメニューを用いたコミュニケーションを、児童は楽しんでいました。「自分が楽しく接すると、相手が喜んでくれた」という児童の感想が印象的でした。

Unit 8 What would you like? ・丁寧な英語を使う場面はレストランだろう。
世界のの人々をおもてなししよう

・オリンピック、パラリンピックと絡めたい。
・書くことを練習活動で終わらずに、書いたものをやり取りの活動で使いたい。

Waiting staff	Customer
Hello! Welcome to Korean restaurant.	Hello!
What would you like?	What's this?
It's bibimbap. It's salty.	How much is it?
It's 780 yen.	I'd like bibimbap.
O.K. Here you are. Enjoy your food!	Thank you!

●自作のワークシートを使ってやり取りをする児童の様子と学習した表現例

We Can! 2 Unit 5: 夏休みの思い出を伝えよう ～ My Summer Vacation ～

①音声での慣れ親しみから読む活動へ

夏休みの思い出を伝えるために必要な表現「～に行った」「～を食べた」「～を見た」「～を楽しんだ」「～を買った」などに音声で慣れ親しんだ後、読む活動につなげます。

ここで、「知りたい＝読みたい」と児童に思わせる仕掛けをしました。3人の先生の思い出日記を

●同僚の先生から聞き取って書いた「思い出日記」

Tado Elementary School 6th: 夏休みの思い出を伝えよう
Class() Name
★思い出日記

My Summer Vacation

I went to Hokkaido.

I ate Genghis Khan.

I saw lavender field.

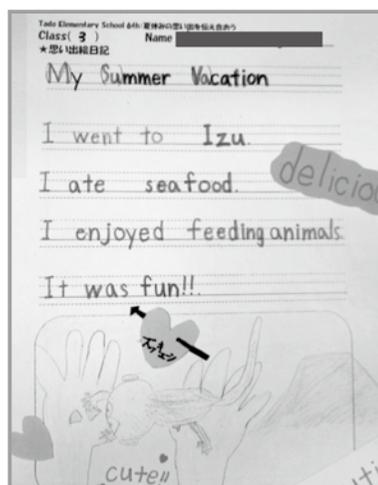
It was fantastic!

読み、どれが誰の日記かを当てるというものです。

読んだ後、「先生たちの思い出を知ることができてよかった」「先生たちもいろいろな思い出があって面白かった」という感想から、児童が知っている人の思い出だからこそ「知りたい＝読みたい」気持ちになるのだと改めて実感しました。また、「英語で書かれている文から、知っている英単語を見つけて、文の内容を理解することができた」という感想から、音声での慣れ親しみが足場掛けとなったことがうかがえました。

②読む活動から書く活動へ

児童が自分の思い出日記を書くときには、先に読んで先生の思い出日記をお手本に、児童自身が思い出日記を書く活動につなげます。



●児童が書いたワークシート例

おわりに

「読むこと」「書くこと」を単なる練習ではなく、「読みたい」「書きたい」という、伝える目的を持った活動にすることで、児童は楽しみながら学んでいたように思います。最終的には、児童自らいろいろな読み物にチャレンジしたり自分のことを英文で伝えたりしようとする姿勢が生まれることを期待しています。

授業づくりは、私にとって楽しいことです。「こんな活動をしたら児童はどんな表情や表現をするのだろう」と、教室での児童の姿を想像しながら単元計画・指導案をつくっています。これからも、知る楽しさ、伝える楽しさを児童が感じられる授業づくりを目指します。



世界の国から Hello!



第3回 タイ編 横山忠道

海外に住む方が、現地の小学校生活を中心に暮らしぶりをレポート。第3回は「微笑みの国」と呼ばれるタイからです。



多様性に満ちたタイ北部の国際都市・チェンマイ

タイの人口は約 6,900 万人で日本の約半分、国土面積は日本の約 1.4 倍で、日本とは 600 年も交流がある親日国です。国民の 9 割が敬虔な仏教徒であり、温和で礼儀正しい国民性から「微笑みの国」と呼ばれ、世界中の観光客から人気を集めています。

今回登場してくれる小学 6 年生の女の子、ピャーバット・ピヤチャートティティクンさん（ピャーバットが名前で、愛称はパーミー）の住むタイ北部の都市・チェンマイは、バンコクに次ぐ第二の都市。荘厳な仏教寺院が至るところに点在しており、日本の観光客から「タイの京都」と呼ばれています。

この地域は昔から、お隣の国であるミャンマー、ラオス、中国との関係が深く、タイ人とミャンマー人とのハーフ（ダブル）など二重国籍児童も数多くいます。世界各国からの観光客も増えていますが、外国人定住者も多くおり、子どもたちは日常生活の中で異なる言語や文化を持つ人々と接することに慣れっこです。

サワディー・カー（こんにちは）！ パーミーです。タイでは愛称で呼び合います。家族は、父母と私の 3 人です。今日着ているのは、ガールスカウトの制服です。

●タイのあいさつは、胸の前で手を合わせる「ウィ」（合掌）が基本。



小学 1 年生で留年も。厳しいタイの学校制度

タイでは、日本と同じく 6 年間の初等教育（小学 1～6 年）、3 年間の前期中等教育（中学 1～3 年）が義務教育です。幼稚園などの就学前教育と後期中等教育（中学 4～6 年）を含め、15 年間は無償で教育が受けられます。

学校は前期・後期の二学期制。前期は 5 月中旬～10 月初旬、後期は 10 月下旬～3 月中旬で、それぞれ期末テストがあります。これは、所定の成績に満たないと落第になってしまうという厳しいもの。小学 1 年生でも留年することがあります。

3 月中旬に後期が終わると、新学年に進級する 5 月中旬まで、約 2 か月の長い夏休みに入ります。この時期は年間で最も気候が厳しい夏季にあたり、気温が 40 度を超える日もあります。四方を山々に囲まれたチェンマイの小学生にとっては、南の島などへ家族旅行に連れて行ってもらえるチャンス。旅行に行くほかに、通っている学校のサマースクールに参加し、楽しく勉強しながら過ごします。



8時から16時までびっしり！ 小学校の長い一日

国や王室への敬慕の念が強いタイでは、学校生活は午前 8 時の国歌斉唱・国旗掲揚から始まります。午前・午後に 10 分間ずつの休憩時間、50 分間のお昼休みがあるほかは、午後 4 時まで合計 6 時間授業の、長い一日を過ごします。



● 6年生の教科書は冊数もページ数もぎっしり。理科・社会などの教科書には各国の話題や先端技術なども豊富に掲載。

パーミーさんの小学校では4年生までは給食が出ますが、5年生からは校内のキャンティーン（欧米のカフェテリアにあたる）で好きな惣菜を注文してランチを楽しみます。タイ料理は辛いことで知られていますが、最近は辛い料理が苦手な子どもが増えています。校内のメニューは比較的マイルドに仕上がっています。育ち盛りの子どもたちは、一日の授業が終わるころにはお腹がペコペコ。下校時間になると学校周辺には、揚げ物・練り物・菓子類・スムージーなどの屋台がズラリと並びます。どれも安くてボリューム満点で大人気。しかしそのせいか、やや肥満気味の児童が目立つのが気になるところです。

● 下校時間の学校周辺はまるで縁日のよう。この日は暑かったので、パーミーさんは冷たいスムージーを注文。



英語は小学1年から必修科目

タイを含むASEAN（東南アジア諸国連合）諸国では、異なる言語の人々と交流するための共通言語として英語を重視しています。タイでは小学1年生から英語が必修科目です。ほとんどの幼稚園でアルファベットや数・色・果物・動物などの英単語を学んでいるため、1年生でも、日本の中学1年生が習うような難しいレベルからいきなりスタートします。高学年になると単語・文法や会話の難易度が上がり、ついていくのが精一杯の児童も多いようです。

パーミーさんの小学校では、英語以外の科目（タ

イ語は除く）でも、欧米人のネイティブスピーカーから英語で授業を受ける「イングリッシュ・プログラム」を選択できます。普通コースのパーミーさんも週6時間、英語での授業を受けています。

パーミーさんの小学校では、主要科目は国語（タイ語）・算数・理科・社会・体育など、基本的に日本と同じですが、仏教国のタイらしく、宗教（仏教）が必修科目です。芸術は、ひとつの科目の中に美術・音楽・タイ伝統舞踊の要素が含まれていて、年一度の学習発表会では大人顔負けのメイクと華やかな衣装で、優美な舞踊と古楽器演奏を披露します。このほか、タイでは初等教育から職業訓練の授業があり、パーミーさんの学校ではコンピュータが必修科目になっています。



放課後は楽しいクラブ活動

タイでは初等教育の間は、保護者による児童の送迎が決められています。授業終了後、保護者が迎えにくる時間まで、子どもたちはクラブ活動に参加するなどして過ごします。絵を描くのが大好きなパーミーさんは美術クラブに所属しており、将来の夢はグラフィックデザイナーです。

密度の濃い、忙しい学校生活を送るタイの子どもたちですが、みんな大らかに生き生きと勉強や活動に取り組んでいます。



● タイでは日本のアニメが大人気。なかでもドラえもんは不動の一番人気で、アニメの主題歌を日本語で歌える小学生もたくさんいます。「アニメに出てくる日本の風景をいつか見に行きたい」とパーミーさん。

横山忠道（よこやま・ただみち）

京都府出身。2004年に日タイ政府間合弁技術者育成事業に従事したのを端緒とし、その後一貫して日タイを繋ぐ活動に専念。2014年にチェンマイ移住。リサーチ・分析スキルを持ち味とした執筆活動を続ける。



連載

豊かなコミュニケーションを育むアクティビティ
学級作りにもつながるおすすめを紹介しします

【第6回】

《みんなで作るアルファベットの組合せメッセージ》

■遠藤恵利子（東北学院大学非常勤講師・元 仙台市立 向山小学校教諭）
むかいやま

アルファベットの組合せメッセージ

クラスメートと協力して、アルファベットの形や音についての学習を行います。アルファベットの名称を「聞いて分かる、形が分かる→協力して認識する」ための活動です。

アルファベットの組合せメッセージ 1 ～紐で文字を作ろう～

▼進め方

- アルファベットの名称に慣れ親しんだ段階で行います。アルファベットの小文字（もしくは大文字）の形の認識・識別の活動として、教師が発するアルファベットを聞き、紐を使って1文字ずつ、アルファベットを形作る活動を行っておきます。

【例】教師：「Please make "a".」を聞いて、児童は紐で a を形作る。

- ①3～4人（3人が望ましい）でグループを作ります。
- ②各グループに柔らかい「紐」（30～40cm）を、活動で使う文字数ぶん渡します。
- ③ALT もしくは HRT など教師が、アルファベットの組合せを伝えます。この段階では3文字～4文字の単語をイメージして伝えます。単語は実際に児童が既に慣れ親しんでいる言葉を選びます。（以下は l-i-o-n の例）

T: Please make some alphabets, l-i-o-n, start!

Ss: l, i, ...? Once more, please!

T: OK. l-i-o-n.

Ss: (各グループは、教師が言った順に、紐で lion の文字を作り終えたところで) Finished!

T: "Let's check. l-i-o-n.

That's right! This is

[lion]."と文字カードとライ

オンの絵カードを提示しながら、アルファベットの文字の名称と形とできあ

がった言葉の意味を確認します。



アルファベットの組合せメッセージ 2 ～言葉作り～

▼進め方

- アルファベットの小文字の名称の認識のために、聞いたり伝えたりする活動を通して、協力してアルファベットを並べ、言葉作りをします。（大文字でも可。）

- ①3～4人でグループを作り、アルファベットの手札カード1セットを配っておきます。
- ②ALTのところにアルファベットの組合せを聞きに行く順番を各グループで決めておきます。
- ③各グループの1番目の児童がALTのもとに集まります。この時ALTは、教室の廊下など他の児童には声が聞こえない場所にいるとよいでしょう。
- ④ALTは各グループの代表児童にアルファベットの組合せメッセージを伝えます。児童は注意深く聞き取ります。

ALT: Please listen! c-a-t.

c-a-t. OK?

Ss: One more time, please.

..... OK!

- ⑤代表児童はグループに戻り、他の児童に伝えます。

S: c-a-t, c-a-t.

Ss: c? ccc..... (cのカード

を探す) a? aaa.....

t? ttt..... c-a-t. (グル

ープで c-a-t のカード

を並べて) Finished!

- ⑥T: "Let's check. c-a-

t. That's right! This is [cat]."と、文字カード

と猫の絵カードを提示しながら、アルファベット

の文字の名称とできあがった言葉の音と意味を確認

します。

- ⑦次の順番の児童が、ALTのもとに行き、別のアルファベットの組合せメッセージを聞いてグループに伝え、同様に活動を進めます。各グループで協力して行うようにします。



イラスト・田村敬子

心を伝える Classroom English

Classroom English (教室英語)は「人と人とをつなげる」コミュニケーション・ツールです。伝えるために大切なのは、正確な発音よりも、気持ちを込めることです。イントネーションや声、顔、身体の実現にも工夫が必要です。Classroom English を上手にを使って、児童とのコミュニケーションを深めましょう。



福田 スティーブ利久
文教大学 教育学部 准教授

第6回

[ALT を迎える・ALT と
打ち合わせする]

今回のテーマは「ALT との会話」です。担任の先生が英語を使う姿勢を子どもに見せることは、とても大切です。児童にとって先生は、日本人が英語でコミュニケーションをするモデルなのです。発音にとらわれずALT と積極的にコミュニケーションを図る姿勢を見ることがとても重要であり、またその姿勢は児童にとって励みになるのです。今回は、ALT とよりスムーズにコミュニケーションをとることが可能になるフレーズをご紹介します。

「授業中」の定番フレーズ

ALT にコメントを求めたり、ゲームのモデルをお願いしたり、活動中に何かを依頼したりすることが多いと思います。まずは、以下の表現をマスターしましょう。

1. How did the students do? (児童のときはどうだった?)
2. Let's show them one time. (一回やってみせましょう。)
3. Please say it [choose one/draw it/write it]. (言って [選んで・描いて・書いて] ください。)
4. Once more, please. (もう一度お願いします。)
5. Sorry to bother you. (中断させてすみません。)

「ALT との打ち合わせ」の定番フレーズ

お互いに時間が限られている中ですので、打ち合わせはスムーズに進めたいものです。以下の例文の下線部に授業内容(例. 教科書の活動タイトル等)を挿入すれば、打ち合わせがよりスムーズに進むはずですよ。

1. Let's talk about the next lesson. (次回の授業について打ち合わせをしましょう。)
2. This is the lesson plan. (これが指導案です。)
3. The topic is Summer Vacation. (題材は _____ です。)

4. By the end of the lesson, students should be able to talk about their summer vacation. (授業が終わるまでに、子どもたちが _____ ということができるようにしたいです。)
5. The beginning and end is the same, Greetings and Reflection. (最初と最後はいつも一緒に、挨拶と振り返りです。)
6. We will do 3 activities, Listen and Point, Pair Speaking, and Writing. (活動を _____ つやります。 _____ と _____ と _____ です。)
7. Please prepare a talk about summer vacation in your country. (_____ を準備してください。)

★ワンポイント・レッスン

多くの先生方から「ALT との打ち合わせの時間が取れなくて困っている」と相談を受けます。ALT の多くが慣れているEメールでやり取りをすれば、悩みを解決できます。以下のテンプレートをぜひご活用ください。

Dear (ALT の名前を記入),

Thank you always for your kind support. Today, I would like to write you about our next lesson on (日時を記入). We will be teaching the (学年 / 何組を記入) with (児童数を記入) students. The topic of the lesson is (授業題材を記入). The words and phrases the student will learn are (覚えてほしい単語やフレーズを記入). We will do (レッスンの活動を記入). Please prepare (準備してほしいものを記入).

We are all looking forward to the lesson with you.

Warm Regards,

(自分の名前を記入)



Steve T. Fukuda

日米の両方で教育を受ける。高校教員を経て、教員養成に携わるために大学の教員となる。モットーは「思いやり」と「恩送り」。



主体的な学びをめざす 小学校英語教育

—教科化からの新しい展開—

小学校英語の教科化を踏まえ、「主体的な学び」をキーワードに、具体的な展開の仕方を提示する。

金森 強・本多敏幸・泉 恵美子 編著
A5判 / 216 ページ / 定価：本体 2,400 円＋税



低学年から始める 英語短時間学習

～すぐに使える
活動アイデアと単元展開～

低・中・高学年別の26の活動例で、音と文字の気づき、音声インプットなどに役立つ小学校英語短時間学習の活動アイデアと具体的な展開の仕方を紹介。

泉 恵美子・田縁真弓・川崎真理子 編著
B5判 / 168 ページ / 定価：本体 2,400 円＋税



〒101-0051 東京都千代田区神田神保町2-10 TEL: 03-3238-6965
<https://www.kyoiku-shuppan.co.jp> FAX: 03-3238-6999

こちらから
弊社サイトに
アクセスできます。



Smiles

表紙の絵から D (d) の文字から始まる英単語を探してみましょう。

Answer department store, dancer(s), dog, donut, dish(es), duck

以下のページで、配付用のワークシートもご用意しています。

アルファベット・ワークシート (教科通信「Smiles」表紙イラスト)



<https://www.kyoiku-shuppan.co.jp/textbook/shou/gaikokugo/wp03-smilecover.html>

小学英語通信 ONE WORLD 小学校英語応援マガジン Smiles [2019年秋号] 2019年8月31日 発行

編集：教育出版株式会社編集局

発行：教育出版株式会社 代表者：伊東千尋

表紙イラスト：クドウあや

印刷：大日本印刷株式会社

発行所：教育出版株式会社

〒101-0051 東京都千代田区神田神保町2-10

電話 03-3238-6864(内容について) 03-3238-6901(配達について)

URL <https://www.kyoiku-shuppan.co.jp>



なかよし宣言

わたしたちをとりまく自然や社会は、科学技術の進展や国際化、情報化、高齢化などによって、今、大きく変わろうとしています。このような社会の変化の中で、人間や地球上のあらゆる命がのびのびと生きていくためには、人や自然を大切にしながら、共に生きていこうとする優しく大きな心をもつことが求められています。

わたしたちは、この理念を「地球となかよし」というコンセプトワードに込め、社会のさまざまな場面で人間の成長に貢献していきます。

- 北海道支社 〒060-0003 札幌市中央区北3条西3-1-44 ヒューリック札幌ビル6F
TEL: 011-231-3445 FAX: 011-231-3509
- 函館営業所 〒040-0011 函館市本町6-7 函館第一ビルディング3F
TEL: 0138-51-0886 FAX: 0138-31-0198
- 東北支社 〒980-0014 仙台市青葉区本町1-14-18 ライオンズプラザ本町ビル7F
TEL: 022-227-0391 FAX: 022-227-0395
- 中部支社 〒460-0011 名古屋市中区大須4-10-40 カジウラテックスビル5F
TEL: 052-262-0821 FAX: 052-262-0825
- 関西支社 〒541-0056 大阪市中央区久太郎町1-6-27 ヨシカワビル7F
TEL: 06-6261-9221 FAX: 06-6261-9401
- 中国支社 〒730-0051 広島市中区大手町3-7-2
あいおいニッセイ同和損保広島大手町ビル5F
TEL: 082-249-6033 FAX: 082-249-6040
- 四国支社 〒790-0004 松山市大街道3-6-1 岡崎産業ビル5F
TEL: 089-943-7193 FAX: 089-943-7134
- 九州支社 〒812-0007 福岡市博多区東比恵2-11-30 クレセント東福岡 E室
TEL: 092-433-5100 FAX: 092-433-5140
- 沖縄営業所 〒901-0155 那覇市金城3-8-9 一粒ビル3F
TEL: 098-859-1411 FAX: 098-859-1411

本資料は、文部科学省による「教科書採択の公正確保について」に基づき、一般社団法人教科書協会が定めた「教科書発行者行動規範」にのっとり、配付を許可されているものです。